

地方会・研究会記録

第 1 回作業関連性運動器障害研究会*

1. 作業関連性運動器障害研究の課題・戦略

小野雄一郎 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生)

作業関連性運動器障害研究の課題・戦略について、頸肩腕障害研究会等の議論にもとづき報告する。その内容は、作業関連性評価のチェックリスト、職場改善のためのマニュアル、人間工学に関するテキスト作成 (日本には良い本が少ない)、職場改善支援のための各種機器・道具の効果に関する検討・評価、質問票・尺度、問診方法の開発 (QOL の組み込み、JOA (整形外科学会) の参照)、診察方法の開発、難治症例に関する治療法 (経絡治療等) の効果に関する検討・評価、運動器障害を有する人数・社会的損失の大きさの把握等である。これらは、①作業評価と職場・作業改善ツールの作成と活用、職場改善の各種機器・道具の効果の評価、②アウトカム把握の尺度開発と治療効果の評価、③問題の大きさの調査、④他分野連携やレビューの重視等に要約される。

第 2 回作業関連性運動器障害研究会**

1. 介護労働者の腰痛予防に関して

埜田和史 (滋賀医科大学社会医学衛生)

介護労働者の腰痛予防に関しては、2007 年以降、厚生労働省から指針や通知が相次いで発表されており、海外では、腰痛予防対策として人力による抱きかかえ介護を無くすことが主流となりつつある。我が国でも、介護労働者の作業負担軽減や腰痛対策を目的に介護補助具の導入を促す「介護労働者設備等整備モデル奨励金事業」が始められた。10 年前より、看護現場でノーリフティングポリシー (人力のみによって患者さんに移乗することを禁止した指針) に基づいて労働衛生マネジメントが実践されてきたオーストラリアでは、看護現場での腰痛者を大きく減らすことに成功している。これらの事柄に

ついて、滋賀医大の北原、安田氏および安全衛生総合研究所の岩切氏が追加報告し、参加者を交えて質疑をおこなう。特に、安田氏が報告したオーストラリアの看護現場での実践については、日本の現場としても学ぶものが多いと考える。

2. 作業関連性運動器障害の危険要因

三橋 徹¹, 榎原 毅²

(¹ひらの亀戸ひまわり診療所,

²名古屋市立大学健康科学・環境生態)

日本では人間工学と環境衛生の基本原則が十分に認知されていない。「腰痛予防のための人間工学的アプローチは無効である」「職場に於ける腰痛にははっきりとした職業性の原因はない」とエビデンスから結論づけている書物もある。これは、臨床において作業関連性の調査がされないあるいは不当に認められない例を助長、企業の予防対策の遅れや社会の人間工学の軽視につながる。研究会の活動提案として、①作業関連性運動器障害予防に関するエビデンスの収集とデータベース化を行い web 上の情報提供、review 論文や作業関連性の診断基準作成、②関連学会との有機的・横断的連携により、実践の問題解決に貢献、例えば良好実践事例などの情報のオンライン連携を模索、③合同シンポジウム企画を当研究会、日本人間工学会、産業保健人間工学会で行う等が考えられる。

3. 作業関連疾患の予防対策としての人間工学プログラムの作成の提案—米国の人間工学テキスト Work Design の翻訳作業について—

宇土 博 (広島文教女子大学福祉工学)

作業関連疾患予防には、人間工学対策が不可欠であるが、多くの職場での対策は不十分である。頸肩腕障害等の従来の研究は、健康管理面に重点が置かれ、予防対策面で不十分であった。頸肩腕障害の「作業条件・作業環境チェックリスト」が提案されているが、その前文には、「作業者の症状の有無・程度などを追及するのみでは、本障害の的確な診断、あるいは予防対策を打ち出すことは難しいため、これを提案した。」と述べており、診断の補助手段としての性格が強く、予防対策の立案には不十分である。こうした状況を変え、職場改善を進めるためには、人間工学プログラムの作成が重要である。しかし、わが国には、プログラム作成の基礎資料となるベーシックでプラクティカルな人間工学のテキストが見当たらない。そこで、いくつかの資料を検討した結果、米国の Konz 教授による標準的な人間工学のテキストの「Work Design」が適切と考え、その翻訳を提案した。翻訳作業には、関連する多くの人の参加を望む。

* 2008 年 6 月 25 日 (水) 16:00~18:00

場 所: 札幌コンベンションセンター

世話人: 小野雄一郎, 宇土 博, 車谷典男, 甲田茂樹, 埜田和史, 三橋 徹, 中田 実, 福地保馬, 中石 仁, 大西明宏, 舟橋 敦

** 2009 年 3 月 7 日 (土) 13:00~17:00

場 所: キャンパスプラザ京都

世話人: 小野雄一郎, 宇土 博, 埜田和史, 甲田茂樹, 三橋 徹, 福地保馬, 中田 実, 車谷典男, 中石 仁, 大西明宏, 舟橋 敦

共 催: 近畿地方会職業関連性筋骨格系疾患研究会

**厚生労働省委託「メンタルヘルス不調の労働者の再チャレンジのための職場復帰訓練等
について指導・助言を行うことのできる産業医養成のための教育研修事業」
平成 21 年産業医科大学『メンタルヘルスエキスパート産業医』養成コース
参加者募集のお知らせ**

労働者の職場復帰支援等の事業場におけるメンタルヘルス対策を立案し、実施する能力を修得するとともに、産業医の資質向上において各地域や企業での中核的な役割を果たすことができる産業医の養成を目的とした研修プログラムです。平成 19 年に開催して以降、参加者には、高い評価をいただいています。今年で 3 回目になりますが、大阪会場で初めて開催いたします。

開催場所・日時 東京会場：（東京ファッションタウン）

平成 21 年 8 月 29 日（土）13：00-17：00、8 月 30 日（日）9：00-17：00

9 月 5 日（土）13：00-17：00、9 月 6 日（日）9：00-17：00

大阪会場：（新大阪丸ビル）

平成 21 年 12 月 5 日（土）13：00-17：00、12 月 6 日（日）9：00-17：00

12 月 12 日（土）13：00-17：00、12 月 13 日（日）9：00-17：00

各会場とも、4 日間の全コースに参加できることが応募条件です。

募集人数：各会場とも 50 名程度（応募多数の場合には抽選で決定）

参加費用：無料

応募期間：平成 21 年 5 月 11 日（月）から 6 月 12 日（金）

申込み方法等：産業医科大学ホームページ（<http://www.uoeh-u.ac.jp/JP/index.html>）の産業医学・産業保健のページをご覧ください。

その他：日本医師会認定産業医制度生涯研修単位取得予定

問合せ先：〒 807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

産業医科大学 産業保健推進課

TEL: 093-691-7464, FAX: 093-691-1211, e-mail: mentalex@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

**第 20 回日本体力医学会
スポーツ医学研修会**

救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、筋力トレーニングおよびテーピングなどの実習を主体とした研修会です。

会期：基礎コース 2009 年 7 月 3 日（金）・4 日（土）

応用コース 2009 年 8 月 21 日（金）・22 日（土）

会場：東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・スポーツクリニックフィットネス室・大学 1 号館 6F 実習室等

申込み・問合せ先：

日本体力医学会スポーツ医学研修会 係

〒 162-0802 新宿区改代町 26-1 三田村ビル

一般社団法人 学会支援機構内

TEL：03-5206-6065 FAX：03-5206-6008

E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第 20 回日本末梢神経学会学術集会

会期：2009 年 9 月 4 日（金）・5 日（土）

会場：大宮ソニックシティ（さいたま市大宮区）

特別講演：「末梢神経再生とミクログリア」

教育講演：「職業性ジストニア—上肢末梢神経障害との鑑別を含めて」

産業医学講座：「作業関連運動器障害について」

イブニングセミナー：“Surgical Strategies and Biologic

Processes to Improve Denervated Muscle Recovery”

Dr. James R. Bain (McMaster University, Canada)

ほか

申込に関するお問合せ先：

株式会社サンプラネット内第 20 回日本末梢神経学会学術集会係（担当：高橋）

〒 112-0012 文京区大塚 2-15-6 ニッセイ音羽ビル 1F

TEL：03-5940-2610 FAX：03-3942-6396

事務局：防衛医科大学校整形外科学講座

（担当：有野・尼子）

TEL：04-2995-1663 FAX：04-2996-5208